

(証券コード9872)
2022年2月1日

株 主 各 位

大阪市中央区南本町三丁目 6 番14号

北恵株式会社

代表取締役社長 北 村 良 一

第63回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第63回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、株主様の安全確保及び感染防止のために、株主様には可能な限り書面またはインターネットによる議決権行使をお願い申し上げます。その場合は、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいますようお願い申し上げます。2022年2月16日（水曜日）午後5時30分までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2022年2月17日（木曜日）午前10時（受付開始：午前9時）
2. 場 所 大阪市中央区安土町三丁目 1 番 3 号
ヴィアール大阪 2 階 安土の間
3. 目的事項

報告事項 第63期（2020年11月21日から2021年11月20日まで）事業報告および
計算書類報告の件

決議事項
第 1 号議案 剰余金の処分の件
第 2 号議案 取締役 9 名選任の件

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎事業報告、計算書類および株主総会参考書類の記載事項を修正する必要がある場合は、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.kitakei.jp/>）に掲載いたしますのでご了承ください。

ご出席株主様のお土産のご用意はございませんので、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

ご出席株主様のお席の間隔を広く確保するため、ご用意できる席数が大幅に減少いたしますので、ご入場を制限させていただく場合がございます。

新型コロナウイルス感染症対策に関するお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、株主の皆様の安全を第一に考え、下記の開催方針に基づいて株主総会を開催いたします。

何卒ご理解、ご協力のほど、お願い申し上げます。

- ・株主の皆様の健康状態にかかわらず、可能な限りご出席をお控えいただき、書面またはインターネットによる事前行使をお願い申し上げます。
- ・株主の皆様のお席の間隔を広く確保するため、ご用意できる席数が大幅に減少いたしますので、ご入場を制限させていただく場合がございます。
- ・株主様のお土産の配布は取りやめさせていただいております。
- ・ご来場の際はマスクをご着用のうえ、会場備え付けのアルコール消毒液をご利用ください。
- ・当日は株主の皆様の体温を計測させていただき、37.5℃以上の発熱が確認された場合、あるいは体調不良を感じられた場合のご入場をお断りすることがございますので、ご理解のほどお願い申し上げます。
- ・本総会に出席する役員および当社スタッフは、マスクを着用いたします。
- ・感染拡大リスク低減のため開催時間を短縮する観点から、議場における報告事項（監査報告を含む）を省略させていただく場合がございます。株主の皆様におかれましては、事前に招集ご通知にお目通しいただけますようお願い申し上げます。
- ・上記以外にも、株主総会開催日時点において必要な感染予防のための追加措置を講じる場合がございます。
- ・今後の状況に応じて株主総会の開催に重要な変更が生じる場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<https://www.kitakei.jp/>）にてご案内を申し上げます。

議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様のご大切な権利です。

後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。

- 書面（郵送）とインターネットにより、重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使を有効なものとして取り扱わせていただきます。
- インターネットにより、複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使されたものを有効な議決権行使として取り扱わせていただきます。



株主総会にご出席される場合

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

2022年2月17日（木曜日）
午前10時（受付開始：午前9時）



書面（郵送）で議決権を行使される場合

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、切手を貼らずにご投函ください。

行使期限

2022年2月16日（水曜日）
午後5時30分到着分まで



インターネットで議決権を行使される場合

次ページの案内に従って、議案に対する賛否をご入力ください。

行使期間

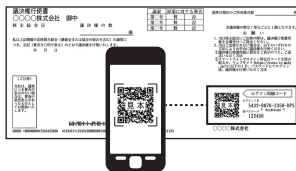
2022年2月16日（水曜日）
午後5時30分入力完了分まで

インターネットによる議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法

議決権行使書用紙に記載のログインID、仮パスワードを入力することなく、議決権行使サイトにログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

議決権行使サイト
〇〇〇株式会社

議決権行使方法の選択

議決権行使方法
議決権行使期間：〇月〇日～〇月〇日
投票期間：〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
行使できる議決権割合：10%

当社は、株主様がご自身の手帳等に記した
がてら議決権行使するご手帳を提出いたし
ます。該当する株員のボタンを選択して次
画面に進みますようお願いいたします。

会社情報のご案内を閲覧しお読みください

議決権行使へ

会社情報のご案内について詳しくはご覧いただけます

議決権行使のご案内

議決権行使

議決権行使の取消

QRコードを用いたログインは1回に限り可能です。

再行使する場合、もしくはQRコードを用いずに議決権を行使する場合は、右の「ログインID・仮パスワードを入力する方法」をご確認ください。

ログインID・仮パスワードを入力する方法

議決権行使
ウェブサイト <https://evote.tr.mufg.jp/>

- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。
- 2 議決権行使書用紙に記載された「ログインID・仮パスワード」を入力しクリックしてください。

三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ信託銀行 株主様へお集まりいただきありがとうございます

本日の議決権行使
議決権行使期間：〇月〇日～〇月〇日
投票期間：〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
行使できる議決権割合：10%

ログインID
仮パスワード

ログイン

「ログインID・仮パスワード」を入力

「ログイン」をクリック

- 3 新しいパスワードを登録する。

三菱UFJ信託銀行

三菱UFJ信託銀行 株主様へお集まりいただきありがとうございます

本日の議決権行使
議決権行使期間：〇月〇日～〇月〇日
投票期間：〇〇時〇〇分～〇〇時〇〇分
行使できる議決権割合：10%

新しいパスワードの登録

新しいパスワード
確認用パスワード

送信

「新しいパスワード」を入力

「送信」をクリック

- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ヘルプデスク
0120-173-027
(通話料無料/受付時間 9:00~21:00)

[添付書類]

事業報告

(2020年11月21日から
2021年11月20日まで)

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過および成果

当社は、2021年8月21日に連結子会社である福住株式会社を吸収合併したことに伴い、連結子会社が存在しなくなったため、当事業年度より連結計算書類を作成していません。

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、一部地域では度重なる緊急事態宣言等の発出・延長もあり、企業や個人の活動に制約が生じる状況が続きました。また秋口には、国民へのワクチン接種が進んだことにより、感染状況にも改善傾向が見られ、緊急事態宣言等の解除とともに経済活動が活発化しはじめたものの、足元では感染力の強い新たな変異株が見つかるなど、引き続き予断を許さない状況が続いております。

当住宅関連業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって生じた雇用・所得環境に対する先行き懸念がある一方で、政府などによる各種の住宅取得支援策の継続や、テレワーク等の普及に伴う住環境改善のニーズもあり、リフォーム需要や新設住宅着工戸数は持ち直しの傾向が見られました。しかしながら、ウッドショックと称される海外での木材需要の高まりに端を発しての国内での木材の供給不足や価格高騰に加え、東南アジア諸国などのロックダウンに伴う部品の供給遅れによる住宅設備機器の納期遅延が発生するなど、混迷をきたす状況となりました。

このような状況のもと、当社は、既存取引先との関係強化を軸として、ビルダー、住宅メーカー、リフォーム・リノベーション専門店、ホームセンターなどの新規取引先の開拓

や、工事機能のさらなる充実により、外壁工事・住設工事などの工事売上の拡大や非住宅市場の開拓を推進するとともに、環境・省エネをテーマとした太陽光発電システムや蓄電池などの住宅設備機器の拡販やオリジナル商品の開発および販売強化に注力し、業績の向上に努めてまいりました。

その結果、当事業年度の売上高につきましては、過去最高となる572億25百万円（前期比7.9%増）となり、営業利益につきましては、8億11百万円（前期比35.6%増）、経常利益につきましては、9億20百万円（前期比27.5%増）、当期純利益につきましては、6億44百万円（前期比11.6%減）となりました。なお、前事業年度の当期純利益におきまして、第1四半期に発生した収用補償金1億16百万円および第4四半期に発生した投資有価証券売却益2億82百万円を特別利益として計上しております。

当事業年度の品目別売上高状況は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	品 目 別	売 上 高	構 成 比
商 品	木 質 建 材	7,299	12.8 %
	非 木 質 建 材	4,684	8.2
	合 板	2,152	3.8
	木 材 製 品	3,394	5.9
	住 宅 設 備 機 器	13,567	23.7
	施 工 付 販 売	1,062	1.9
	そ の 他	4,576	7.9
	小 計	36,738	64.2
工 事	完 成 工 事 高	20,486	35.8
合 計		57,225	100.0

(注) 前事業年度までは連結計算書類での品目別売上高状況で記載しておりましたが、当事業年度より非連結決算に移行したことから単体での品目別売上高状況で記載しております。

(2) 設備投資等の状況

当事業年度中に実施した設備投資の総額は70百万円であり、その主なものは器具備品30百万円であります。

(3) 資金調達の状況

該当事項はありません。

(4) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

(5) 事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

(6) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

2021年5月11日開催の取締役会において、当社の連結子会社である福住株式会社を吸収合併することを決議し、2021年8月21日付で吸収合併し、その権利義務を継承いたしました。

(7) 他の会社の株式その他持分または新株予約権等の取得または処分の状況
該当事項はありません。

(8) 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、ワクチン接種の普及等に伴う経済活動の再開が期待されるものの、依然として変異株による感染の再拡大や世界的な物価上昇など、予断を許さない状況が続くものと思われまます。

当住宅関連業界におきましても、緩和的な金融環境が継続する中、政府による住宅購入のための支援策などが実施される一方で、引き続き建築資材の価格高騰や納期遅延などが懸念され、先行きは不透明な状況が続くものと予想されます。

当社といたしましては、このような状況を十分認識し、引き続き、地域の有力販売店やビルダー、住宅メーカー、ホームセンター、非住宅分野などの新規取引先の開拓とともに、既存取引先との関係強化、工事機能のさらなる充実による外壁工事や住設工事などの工事売上の拡大、環境・省エネをテーマとした住宅設備機器やオリジナル商品の拡販などに注力し、業績の向上を目指す所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(9) 財産および損益の状況

区 分	第 60 期 2018年11月期	第 61 期 2019年11月期	第 62 期 2020年11月期	第 63 期 (当事業年度) 2021年11月期
売 上 高 (百万円)	56,123	55,530	53,027	57,225
経 常 利 益 (百万円)	849	938	721	920
当 期 純 利 益 (百万円)	539	579	728	644
1 株 当 た り 当 期 純 利 益 (円)	58.16	62.49	78.54	69.42
総 資 産 (百万円)	25,651	25,523	25,396	27,381
純 資 産 (百万円)	11,300	11,686	11,982	12,400

- (注)1. 1株当たり当期純利益は、自己株式数を控除した期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。
2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第61期の期首から適用しており、第60期に係る総資産については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。
3. 当社は、2021年8月21日に連結子会社である福住株式会社を吸収合併したことに伴い、連結子会社が存在しなくなったため、当事業年度より連結計算書類を作成しておりません。

(10) 重要な親会社および子会社の状況

① 親会社との関係

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

該当事項はありません。

なお、当社は2021年8月21日付で当社の連結子会社である福住株式会社を吸収合併いたしました。

(11) 主要な事業内容

当社は、木材店、建材店、工務店、住宅会社等の取引先に対して新建材、住宅設備機器等の商品販売および上記取引先から工事請負を行っております。

主要商品等は次のとおりであります。

品 目 別	主 要 商 品 等
木 質 建 材	ユニットドア、クローゼット、フロア、収納ユニット、階段セット
非 木 質 建 材	石膏ボード、断熱材、屋根材、不燃ボード、サイディング
合 板	ラワン合板、針葉樹合板
木 材 製 品	木材構造材、木材造作材、フローリング
住 宅 設 備 機 器	システムキッチン、ユニットバス、洗面ユニット、トイレ、 空調機器、燃焼機器、太陽光発電パネル
施 工 付 販 売	外壁工事、住設工事、屋根工事、構造躯体工事、内装工事、 サッシ工事、太陽光発電システム
完 成 工 事 高	
そ の 他	サッシ、エクステリア、化成品、建築金物、建築道具

(注) 施工付販売……仕入メーカーの責任施工により行っている工事
完成工事高……当社の下請工事業者により行っている工事

(12) 主要な事業所

本 社 大阪市中央区

営 業 所 仙台、埼玉、東京、横浜、千葉、水戸、甲府、静岡、金沢、名古屋、
岐阜、滋賀、京都、奈良、大阪中央、北大阪、阪和、姫路、姫路東、
明石、岡山、高松、福岡、北九州、鳥栖、熊本

(13) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
376名	15名増	40.7歳	12.2年

(注) 従業員数には、使用人兼務取締役、臨時従業員（パートタイマーおよび派遣社員）は含まれておりません。

(14) 主要な借入先

該当事項はありません。

2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 32,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 10,011,841株 (自己株式 733,741株を含む)
- (3) 株 主 数 5,129名
- (4) 大 株 主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
北 村 良 一	1,422 ^{千株}	15.33 [%]
有 限 会 社 ケ イ ア ン ド エ ム	1,373	14.80
北 村 誠	623	6.72
北 村 裕 三	486	5.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	344	3.71
北 恵 社 員 持 株 会	320	3.45
豎 智 精	250	2.69
株 式 会 社 り そ な 銀 行	200	2.15
三 菱 U F J 信 託 銀 行 株 式 会 社	188	2.03
株 式 会 社 日 本 カ ス ト デ ィ 銀 行 (信 託 口)	182	1.96

- (注) 1. 当社の自己株式 (733,741株) は、上記の大株主に含めておりません。
2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。
3. 持株比率の数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

- (5) その他株式に関する重要な事項
該当事項はありません。

3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 会社役員に関する事項

(1) 取締役および監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	北 村 良 一	
専務取締役	北 村 誠	営業本部長
取 締 役	北 村 裕 三	管理本部長
取 締 役	岸 本 規 正	中部営業部長
取 締 役	山 内 昭 彦	営業推進部長
取 締 役	中 村 均	大阪営業部長兼関西営業部長
取 締 役	齋 田 征 人	経理部長
取 締 役	森 信 静 治	弁護士、梅新法律事務所所長、株式会社池田泉州ホールディングス社外監査役
取 締 役	杉 野 正 博	株式会社マキタ社外取締役、ミサワホーム株式会社社外取締役
常勤監査役	柏 原 弘 道	
監 査 役	駒 井 隆 生	税理士、税理士法人スマイル 代表社員
監 査 役	酒 谷 佳 弘	公認会計士、ジャパン・マネジメント・コンサルティング株式会社代表取締役、株式会社プレサンスコーポレーション社外取締役(監査等委員)、株式会社ワッツ社外取締役(監査等委員)、株式会社タカミヤ社外監査役、粧美堂株式会社社外取締役(監査等委員)

- (注) 1. 取締役森信静治氏および取締役杉野正博氏は、社外取締役であります。なお、両氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
2. 監査役駒井隆生氏および監査役酒谷佳弘氏は、社外監査役であります。なお、両氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
3. 監査役駒井隆生氏は、税理士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役酒谷佳弘氏は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

(2) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、取締役、監査役を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、これにより被保険者がその職務の執行に関して、損害賠償を受けることによって生じる損害（ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当する場合を除く）については、当該保険契約により填補することとしております。

なお、保険料は全額当社が負担しております。

(3) 当事業年度に係る取締役および監査役の報酬等

① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、2021年2月4日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

当社の各取締役の報酬は、基本報酬、賞与および退職慰労金で構成し、いずれも、株主総会でご承認をいただいた報酬総額の範囲内で、社外取締役の適切な助言を得たうえで、取締役会で決定するものとしております。ただし、基本報酬は、事前に社外取締役の適切な助言を得たうえで、代表取締役社長に決定権限の一切を再一任する旨を取締役会で決議しております。

各取締役の基本報酬および賞与は、株主総会の決議により定められた最高限度額の範囲内で、役位、役割および業績、管理、ガバナンス等に対する貢献度に応じて総合的に考慮して決定しております。

また、退職慰労金は、株主総会で支給金額・支給時期・支給方法を取締役会に一任する旨の決議を得たうえで、在職中の功労に応じて役員退職慰労金支給規程に基づき、取締役会で協議して決定しております。

なお、社外取締役につきましては、役割と独立性の観点から、基本報酬のみで支給しております。

② 取締役および監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の報酬の限度額は、1990年2月16日開催の第31回定時株主総会において、「年額1億8,000万円以内」〔当該定時株主総会終結時点の取締役員数は7名（現在9名）〕と、監査役の報酬の限度額は、1994年2月17日開催の第35回定時株主総会において、「年額3,000万円以内」〔当該定時株主総会終結時点の監査役員数は3名（現在3名）〕と、それぞれ決議いただいております。

③ 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

当社では、取締役会の委任決議に基づき、代表取締役社長北村良一が、事前に社外取締役の適切な助言を得たうえで、各取締役の個人別の基本報酬の額を決定しております。

委任した理由は、当社の業績等を勘案しつつ、各取締役の役位、役割および各種貢献度について総合的な判断を行うには代表取締役社長が適していると判断したためであります。

また、取締役会は、当事業年度に係る各取締役の個人別の報酬等について、報酬の内容が当該決定方針に基づいて決定されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものと判断しております。

④ 取締役および監査役の報酬等の総額等

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (うち社外取締役)	129,196 (7,200)	92,386 (7,200)	19,500 (—)	17,310 (—)	9 (2)
監査役 (うち社外監査役)	15,260 (7,200)	14,640 (7,200)	— (—)	620 (—)	3 (2)
合計 (うち社外役員)	144,456 (14,400)	107,026 (14,400)	19,500 (—)	17,930 (—)	12 (4)

(注) 取締役の報酬等には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

(4) 社外役員に関する事項

① 重要な兼職先と当社との関係

各社外役員の重要な兼職先は、前記(1)に記載のとおりです。なお、いずれも当社と各兼職先との間に特別の関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

区 分	氏 名	主な活動状況および期待される役割に関して行った職務の概要
取 締 役	森 信 静 治	当事業年度開催の取締役会17回のすべてに出席し、主に弁護士としての専門的見地から意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための助言を行っております。また、役員の指名や報酬等の決定に際しては事前に適切な助言を行うなど、社外取締役として適切な役割を果たしていただいております。
取 締 役	杉 野 正 博	当事業年度開催の取締役会17回のすべてに出席し、会社経営の豊富な経験と幅広い見識に基づき意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を確保するための助言を行っております。また、役員の指名や報酬の決定に際しては事前に適切な助言を行うなど、社外取締役としての適切な役割を果たしていただいております。

区 分	氏 名	主な活動状況
監 査 役	駒 井 隆 生	当事業年度開催の取締役会17回および監査役会15回のすべてに出席し、主に税理士としての専門的見地からの発言を行っております。
監 査 役	酒 谷 佳 弘	当事業年度開催の取締役会17回および監査役会15回のすべてに出席し、主に公認会計士としての専門的見地からの発言を行っております。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社は、各社外取締役および各社外監査役との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約をそれぞれ締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額であります。

5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

① 当事業年度に係る報酬等の額

29,800千円

② 当社および子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

29,800千円

(注) 1. 当社は、会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、①の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を含めて記載しております。

2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意に基づき監査役会が会計監査人を解任いたします。

また、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

6. 業務の適正を確保するための体制

- (1) 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ①コンプライアンス規程を定め、周知徹底を図るとともに、法令及び定款等に違反する行為を発見した場合の報告体制として子会社も含めた内部通報制度を構築する。
 - ②子会社が当社のコンプライアンス規程と同等の規程を制定することを通じて、企業倫理の確立並びにコンプライアンス体制の構築を図る。
 - ③就業規則及び社内規程の遵守の徹底と、内部監査の充実を図り、職務の執行の適正性及び効率性を確保する。
 - ④重要事項等の決定については、必要に応じて、顧問弁護士等から助言及び指導を受け、適法性を確保する。
 - ⑤市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切の関係を遮断するとともに、これらの活動を助長するような行為は一切行わない。また、反社会的勢力及び団体による不当要求に対しては、組織全体として毅然とした態度で対応する。

- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ①文書管理規程に従い、取締役の職務に係る情報を文書または電磁的媒体に記録し、適切に保存及び管理を行う。
 - ②取締役及び監査役は、前号の文書等を常時閲覧できる。

- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ①リスク管理規程を定め、個々のリスクについての責任部署を決定し、同規程に従ったリスク管理体制を構築する。
 - ②リスク管理体制の適用範囲には子会社も含め、企業集団全体の業務の適正化を図る。

- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ①取締役会を原則月1回開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催する。
 - ②取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、業務分掌規程に基づき、各責任者が業務を遂行する。
 - ③関係会社管理規程に従い、子会社を管理する担当部署を置くとともに、企業集団全体の業務の効率的な遂行を図る。

- (5) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ①子会社の内部監査を定期的実施し、その結果について、担当取締役はコンプライアンス及び効率性の観点からの課題を把握し、その重要度に応じて取締役会に報告する。
 - ②子会社の経営については、その自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う。
- (6) 監査役職務を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- ①監査役は、必要に応じて、内部監査室及び管理本部所属の使用人に、その職務の遂行の補助を委嘱することができる。その際、監査役が補助使用人に委嘱した職務については、取締役以下補助使用人の属する上長等の指揮命令を受けないこととし、これを当社内に徹底する。
 - ②前号の使用人に関する人事異動については、監査役と事前協議を行う。
- (7) 当社及び子会社の取締役及び使用人等が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- ①当社及び子会社の取締役及び使用人等並びに子会社の取締役及び使用人等から報告を受けた者は、法令及び定款に違反する行為、または著しい損害の生じるおそれのある事実、その他経営及び業績に影響を及ぼす重要な事項について認識した場合には、監査役に遅滞なく報告し、監査役は監査役会に報告する。
 - ②監査役は、必要に応じて、当社及び子会社の取締役及び使用人等に対して業務に関する報告を求めることができるとともに、監査役会に関係者を出席させることができる。
 - ③当社及び子会社は、上記①②の報告をした者に対して、当該報告をしたことを理由とした不利益処分は行わないものとする。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①監査役は、代表取締役社長と定期的に意見交換会を開催する。
- ②監査役は、取締役、会計監査人及び内部監査室と適宜情報・意見交換を行う。
- ③当社は、監査役の職務執行について生じる費用または債務（会計監査人・弁護士に相談する費用を含むがこれに限らない）については負担する。

上記業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は次のとおりであります。

(1) コンプライアンス体制について

当事業年度はコンプライアンス意識の向上を図るため、コンプライアンス研修を実施いたしました。コンプライアンス委員会を毎月開催してコンプライアンスに関する課題の把握に努め、また、子会社も含めた内部通報ホットライン窓口を設置して運用しております。さらに、内部監査室は、内部監査計画に基づき各部門の業務執行や子会社の監査を実施いたしました。

(2) リスク管理について

各部署が把握したリスクに基づき全社的にリスクの見直しを行うとともに、中間及び期末に、その対応策及び進捗状況を取締役に報告いたしました。

(3) 取締役の職務の執行について

当事業年度は、取締役会を17回開催し、月次業績の報告・検討や法令又は定款に定められた事項及び経営上の重要事項を決定するとともに、各取締役の業務執行を監督するほか、子会社の業務執行の報告を受けております。また、取締役会議事録など取締役の職務の執行に係る書類について、社内規程に基づき適切に保存及び管理しております。

(4) 監査役の職務の執行について

監査役は、重要な会議への出席、稟議書等の重要な決裁書類の閲覧、営業所及び子会社への往査等を通じて監査を行いました。また、代表取締役との意見交換会の開催や取締役、会計監査人及び内部監査室と情報交換・意見交換を行いました。

貸借対照表

(2021年11月20日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	23,887,358	流動負債	14,010,903
現金及び預金	10,321,361	支払手形	3,458,203
受取手形	554,619	電子記録債権	3,632,311
電子記録債権	1,462,404	買掛金	5,810,627
売掛金	9,945,027	未払金	329,388
商品	669,300	未払費用	340,250
未成工事支出金	897,829	リース負債	1,853
貯蔵品	1,259	未払法人税等	163,152
その他流動資産	40,756	未払消費税等	125,473
貸倒引当金	△5,199	未成工事受入金	102,083
固定資産	3,494,151	前受入金	26,989
有形固定資産	1,707,321	役員賞与引当金	19,500
建物	243,865	その他流動負債	1,069
器具備品	86,263	固定負債	970,337
土地	1,320,529	預り保証金	535,680
リース資産	3,455	リース負債	1,921
その他有形固定資産	53,207	繰延税金負債	37,929
無形固定資産	66,646	役員退職慰労引当金	274,430
ソフトウェア	63,051	退職給付引当金	94,101
その他無形固定資産	3,594	資産除去負債	16,831
投資その他の資産	1,720,183	その他固定負債	9,443
投資有価証券	725,214	負債合計	14,981,240
破産更生債権等	54,280	純資産の部	
差入保証金	112,023	株主資本	12,247,804
敷金	146,607	資本剰余金	2,220,082
保険積立金	193,674	資本剰余金	2,851,427
投資不動産	516,035	資本準備金	2,850,892
その他投資	26,628	その他資本剰余金	535
貸倒引当金	△54,280	利益剰余金	7,382,616
資産合計	27,381,510	利益準備金	170,300
		その他利益剰余金	7,212,316
		固定資産圧縮積立金	454,678
		別途積立金	2,150,000
		繰越利益剰余金	4,607,637
		自己株式	△206,321
		評価・換算差額等	152,465
		その他有価証券評価差額金	152,465
		純資産合計	12,400,270
		負債及び純資産合計	27,381,510

招集ご通知

事業報告

計算書類

監査報告書

株主総会参考書類

損 益 計 算 書

(2020年11月21日から
2021年11月20日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		
商品売上高	36,738,535	
完成工事高	20,486,987	57,225,522
売 上 原 価		
商品売上原価	32,921,294	
完成工事原価	18,576,494	51,497,789
販売費及び一般管理費		5,727,732
営業利益		4,916,620
営業外収益		811,112
受取利息	223	
有価証券利息	2,302	
受取配当金	9,101	
仕入割引	121,697	
受取賃貸料	27,188	
その他営業外収益	22,111	182,625
営業外費用		
支払利息	5	
売上割引	64,522	
賃貸原価	7,322	
その他営業外費用	1,822	73,672
経常利益		920,064
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	25,254	25,254
税引前当期純利益		945,319
法人税、住民税及び事業税	323,561	
法人税等調整額	△22,355	301,206
当期純利益		644,112

株主資本等変動計算書

(2020年11月21日から
2021年11月20日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,220,082	2,850,892	535	2,851,427
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
固定資産圧縮積立金取崩額				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	2,220,082	2,850,892	535	2,851,427

(単位：千円)

	株 主 資 本		
	利 益 剰 余 金		
	利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金	
固定資産圧縮積立金		別途積立金	
当期首残高	170,300	455,051	2,150,000
当期変動額			
剰余金の配当			
当期純利益			
自己株式の取得			
固定資産圧縮積立金取崩額		△372	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			
当期変動額合計	-	△372	-
当期末残高	170,300	454,678	2,150,000

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	利 益 剰 余 金		自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	4,195,107	6,970,458	△206,196	11,835,772
当期変動額				
剰余金の配当	△231,955	△231,955		△231,955
当期純利益	644,112	644,112		644,112
自己株式の取得			△124	△124
固定資産圧縮積立金取崩額	372	—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	412,529	412,157	△124	412,032
当期末残高	4,607,637	7,382,616	△206,321	12,247,804

(単位：千円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	146,229	146,229	11,982,001
当期変動額			
剰余金の配当			△231,955
当期純利益			644,112
自己株式の取得			△124
固定資産圧縮積立金取崩額			—
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	6,236	6,236	6,236
当期変動額合計	6,236	6,236	418,268
当期末残高	152,465	152,465	12,400,270

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券…償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…移動平均法による原価法

(2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商 品…先入先出法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価の切下げの方法により算定）

未成工事支出金…個別法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価の切下げの方法により算定）

貯 蔵 品…最終仕入原価法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価の切下げの方法により算定）

(4) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）及び2016年4月1日以降に取得した建物付属設備、構築物については、定額法によっております。

また、取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

主な耐用年数…建物 10～50年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

投資不動産（リース資産を除く）

定率法。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び2016年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物については、定額法によっております。

主な耐用年数…建物 20～47年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法によっております。

(5) 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異の処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

役員退職慰労引当金

当社の役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(6) 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
…工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
その他の工事…工事完成基準

(7) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。ただし、振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約取引

ヘッジ対象…外貨建金銭債務及び外貨建予定取引

ヘッジ方針

為替に係る相場変動リスクを回避する目的で、実需の範囲内で対象取引のヘッジを行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、相場変動を完全に相殺するものと考えられるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

(8) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更に関する注記

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る計算書類から適用し、計算書類に会計上の見積りに関する注記を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(重要な会計上の見積り)

会計上の見積りは、計算書類作成時に入手可能な情報に基づいて合理的な金額を算出しております。当事業年度の計算書類に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌事業年度の計算書類に重要な影響を及ぼすリスクがある項目は以下のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響は一定程度発生すると想定されますが、当社の業績等への影響は軽微であると考えており、現時点において、会計上の見積りの前提について前事業年度より変更は行っておりません。

(固定資産の減損損失の認識の要否)

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

土地、建物等の時価下落により減損の兆候があると判断し、減損損失の認識の要否について使用価値をもって検討を行った資産グループ2拠点(帳簿価額合計1,188,874千円)は、事業計画に基づく割引前将来キャッシュ・フローの総額が資産グループの固定資産の帳簿価額を超えると判断したため、減損損失は計上しておりません。

(2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

当社は、原則として、営業所等を単位として資産グルーピングを行っております。

土地・建物等の著しい時価下落や収益性の低下等により減損の兆候があると認められる場合には、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識が必要とされた場合、帳簿価額を回収可能価額（正味売却価額又は使用価値のいずれか高い価額）まで減額し、当該帳簿価額の減少額は減損損失として認識します。

当該資産又は資産グループから得られる将来キャッシュ・フローの見積りは、過年度の実績を踏まえ、翌事業年度の予算を基礎としておりますが、安定した売上高及び売上総利益率、将来の修繕計画及び主要な資産の今後の使用見込み等を主要な仮定としており、不確実性が否めないため、今後の経営環境が著しく悪化した場合には、将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	889,938千円
(2) 投資不動産の減価償却累計額	100,412千円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

営業取引による取引高の総額	198,498千円
営業取引以外の取引高の総額	2,259千円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度の末日における発行済株式数	
普通株式	10,011,841株
(2) 当事業年度の末日における自己株式の数	
普通株式	733,741株

(3) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額
2021年2月18日 定時株主総会	普通株式	231,955千円
1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
25円	2020年11月20日	2021年2月19日

② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決 議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額
2022年2月17日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	222,674千円
1株当たりの配当額	基準日	効力発生日	
24円	2021年11月20日	2022年2月18日	

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払賞与	56,876千円
退職給付引当金	28,701千円
役員退職慰労引当金	83,701千円
減損損失	141,682千円
その他	65,720千円
繰延税金資産小計	376,681千円
評価性引当額	△154,702千円
繰延税金資産合計	221,979千円

繰延税金負債

固定資産圧縮積立金	199,535千円
その他有価証券評価差額金	59,465千円
その他	907千円
繰延税金負債合計	259,908千円
繰延税金負債純額	37,929千円

8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、安全性及び流動性の高い短期的な預金等を中心に行っております。資金調達については、必要時には様々な調達手段の中から最適な手段を選択する方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び電子記録債権並びに売掛金の信用リスクについては、「与信管理手続規程」に従い、取引先ごとに期日及び残高管理を行うとともに、経営状況をモニタリングすることにより、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式及び余資運用の債券であります。

業務上の関係を有する企業の株式については、定期的に時価や取引先の財務状況を把握し、取引先との関係を勘案して保有状況を検討しております。また、余資運用の債券は、信用リスクを軽減するために、安全性の高いもののみを対象としております。

営業債務である支払手形及び電子記録債務並びに買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年11月20日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（(注2) 参照）。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	10,321,361	10,321,361	—
(2) 受取手形	554,619		
(3) 電子記録債権	1,462,404		
(4) 売掛金	9,945,027		
貸倒引当金（※）	△5,199		
受取手形、電子記録債権 及び売掛金（純額）	11,956,851	11,956,851	—
(5) 有価証券及び投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	200,000	198,468	△1,532
② その他有価証券	522,172	522,172	—
資産 計	23,000,385	22,998,853	△1,532
(1) 支払手形	3,458,203	3,458,203	—
(2) 電子記録債務	3,632,311	3,632,311	—
(3) 買掛金	5,810,627	5,810,627	—
負債 計	12,901,142	12,901,142	—

※受取手形、電子記録債権及び売掛金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 電子記録債権、(4) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

- (1) 支払手形、(2) 電子記録債務、(3) 買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	3,042

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(5) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)	10年超(千円)
現金及び預金	10,321,361	—	—	—
受取手形	554,619	—	—	—
電子記録債権	1,462,404	—	—	—
売掛金	9,945,027	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	200,000	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
1. 債券				
(1) 国債・地方債等	—	—	—	—
(2) 社債	—	—	200,000	—
(3) その他	—	—	—	—
合計	22,283,411	200,000	200,000	—

9. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

10. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,336円51銭
(2) 1株当たり当期純利益	69円42銭

11. その他の注記

(1) 当事業年度末日満期手形等

当事業年度末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の当事業年度末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

受取手形	26,003千円
電子記録債権	120,532千円

(2) 企業結合等関係

(共通支配下の取引等)

当社は、2021年5月11日開催の取締役会において、当社の連結子会社である福住株式会社を吸収合併（以下、「本合併」という。）することを決議し、2021年8月21日付で吸収合併いたしました。

1. 取引の概要

① 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 福住株式会社

事業の内容 住宅設備機器・各種建築資材の販売

② 企業結合日

2021年8月21日

③ 企業結合の法定形式

当社を存続会社、福住株式会社を消滅会社とする吸収合併方式であります。

④ 結合後企業の名称

北恵株式会社

⑤ その他取引の概要に関する事項

経営資源の集約、業務の効率化等を目的とし福住株式会社を吸収合併いたしました。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき共通支配下の取引として処理しております。

会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

2022年1月18日

北 恵 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

EY新日本有限責任監査法人

大 阪 事 務 所

指定有限責任社員 公認会計士 平 岡 義 則
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 後 藤 英 之
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、北恵株式会社の2020年11月21日から2021年11月20日までの第63期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書 謄本

監 査 報 告 書

当監査役会は、2020年11月21日から2021年11月20日までの第63期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2022年1月18日

北恵株式会社 監査役会

常勤監査役 柏原弘道 ⑩

社外監査役 駒井隆生 ⑩

社外監査役 酒谷佳弘 ⑩

以上

株主総会参考書類

招集
通知

事業
報告

計算
書類

監査
報告書

株主
総会
参考
書類

議案および参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、安定した配当を継続しつつ、当社を取り巻く経営環境および財務状況等を勘案の上、業績に応じた利益還元を行っていくことを基本方針とし、配当額につきましては、当面の間、1株当たり年間14円を下限とした上で、配当性向35%を目途としております。

なお、非経常的な要因により、当期純利益が変動する場合等においては、その影響を考慮し配当額を決定してまいります。

上記に基づき、当期の期末配当につきましては、以下のとおりと致したいと存じます。

(1) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式

1株につき金 24円 総額 222,674,400円

(2) 剰余金の配当が効力を生じる日

2022年2月18日

第2号議案 取締役9名選任の件

本総会終結の時をもって、取締役全員（9名）が任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
1	<small>きた むら りょう いち</small> 北 村 良 一 (1958年1月19日)	1980年4月 当社入社 1986年2月 取締役営業本部営業部長 1987年11月 代表取締役専務 1988年6月 代表取締役社長（現任）	1,422,700株
	(取締役候補者とした理由) 長年にわたり代表取締役社長を務め、企業経営者としての豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者といたしました。		

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
2	<p style="text-align: center;"> <small>きた</small> <small>むら</small> <small>まこと</small> 北 村 誠 (1960年10月20日) </p>	<p>1983年 4 月 当社入社</p> <p>1994年 5 月 東京第 1 営業部部長代理</p> <p>1995年11月 東日本営業部部長代理</p> <p>1998年 5 月 総務部長</p> <p>2000年 2 月 取締役総務部長</p> <p>2001年 2 月 取締役経理部長</p> <p>2001年 5 月 取締役経理部長兼経営企画室長</p> <p>2002年11月 取締役管理本部長兼経理部長兼経営企画室長</p> <p>2004年 2 月 常務取締役管理本部長兼経理部長兼経営企画室長</p> <p>2006年 5 月 常務取締役管理本部長兼経理部長</p> <p>2008年 2 月 常務取締役経営統括本部長</p> <p>2011年 1 月 常務取締役管理本部長兼経理部長</p> <p>2013年 5 月 常務取締役管理本部長</p> <p>2015年11月 常務取締役営業本部長兼営業企画部長</p> <p>2016年 2 月 専務取締役営業本部長兼営業企画部長</p> <p>2016年 5 月 専務取締役営業本部長（現任）</p>	623,744株
<p>(取締役候補者とした理由)</p> <p>当社の経営に関する豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者といたしました。</p>			

候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
3	きた むら ゆう ぞう 北 村 裕 三 (1964年6月6日)	1987年4月 当社入社 2003年8月 営業企画部副部長 2008年1月 営業企画部長 2008年2月 取締役営業企画部長 2015年11月 取締役管理本部長（現任）	486,379株
(取締役候補者とした理由) 営業部門、管理部門における豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者といたしました。			
4	きし もと のり まさ 岸 本 規 正 (1963年8月18日)	1984年4月 当社入社 2003年5月 西日本営業部長 2005年11月 九州営業部長 2010年11月 近畿営業部長 2012年2月 取締役近畿営業部長 2012年11月 取締役住宅資材部長 2014年11月 取締役近畿第二営業部長 2016年11月 取締役関西営業部長 2018年5月 取締役中部営業部長（現任）	9,700株
(取締役候補者とした理由) 営業部門に長年携わり、豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者といたしました。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
5	やま うち あき ひこ 山 内 昭 彦 (1963年6月25日)	1986年4月 当社入社 2003年11月 近畿営業部副部長 2007年11月 東日本営業部副部長 2009年11月 東日本営業部長 2012年2月 取締役東日本営業部長 2019年11月 取締役営業推進部長(現任)	20,700株
		(取締役候補者とした理由) 営業部門に長年携わり、豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者いたしました。	
6	なか むら ひとし 中 村 均 (1960年3月5日)	1999年11月 当社入社 2010年11月 住宅資材部長 2012年11月 近畿営業部長 2014年2月 取締役近畿営業部長 2014年11月 取締役近畿第一営業部長 2016年11月 取締役大阪営業部長 2018年5月 取締役大阪営業部長兼関西営業部長(現任)	6,000株
		(取締役候補者とした理由) 営業部門に長年携わり、豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者いたしました。	
7	さい た まさ と 齋 田 征 人 (1964年12月7日)	2000年6月 当社入社 2012年2月 経理部副部長 2013年5月 経理部長 2020年2月 取締役経理部長(現任)	2,400株
		(取締役候補者とした理由) 経理部門に長年携わり、豊富な経験、実績、見識を有しており、当社の企業価値向上を推進するために適任であると考え、取締役候補者いたしました。	

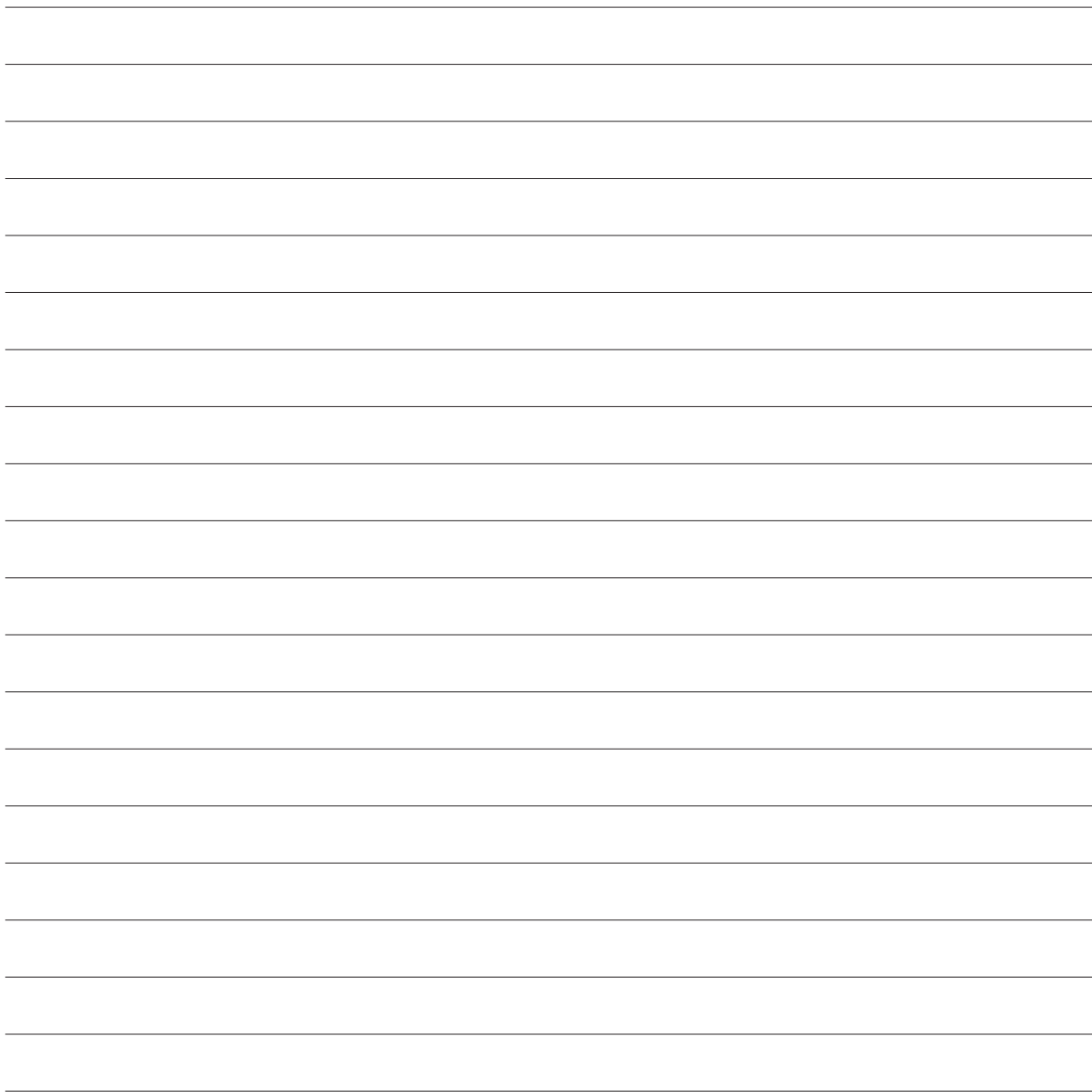
候補者 番号	氏 名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
8	もり のぶ せい じ 森 信 静 治 (1949年7月9日)	1978年4月 弁護士登録 1988年4月 梅新法律事務所開設 所長（現任） 2004年4月 大阪弁護士会副会長、日本弁護士連合会理事 2005年4月 大阪大学大学院法学研究科招聘教授 2013年4月 日本弁護士連合会常務理事 2015年2月 当社社外取締役（現任） 2017年6月 株式会社池田泉州ホールディングス社外監査 役（現任） （重要な兼職の状況） 梅新法律事務所所長 株式会社池田泉州ホールディングス社外監査役	0株
（社外取締役候補者とした理由および期待される役割） 弁護士としての豊富な経験と深い専門知識に基づき、取締役会において積極的に発言し、当社の業務執行の監督の役割を適切に果たしております。また、役員の名指・報酬の決定に際しても、事前に適切な助言をいただいております。今後も独立した立場から、業務執行の監督機能強化への貢献が期待されるため、社外取締役候補者といたしました。			

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する 当社株式の数
9	<p style="text-align: center;">すぎのまさひろ 杉野正博 (1944年11月18日)</p>	<p>1967年4月 伊奈製陶株式会社（現 株式会社LIXIL）入社 1992年1月 株式会社INAX（旧 伊奈製陶株式会社）取締役 1996年1月 同社常務取締役 2000年1月 同社専務取締役 2001年10月 同社代表取締役社長 2007年6月 同社代表取締役会長 2007年6月 株式会社住生活グループ（現 株式会社LIXILグループ）代表取締役社長 2011年4月 株式会社LIXIL代表取締役社長 2011年6月 同社取締役相談役 2013年6月 同社相談役（非常勤） 2015年6月 株式会社マキタ社外取締役（現任） 2017年6月 ミサワホーム株式会社社外取締役（現任） 2018年2月 当社社外取締役（現任） 2018年7月 株式会社LIXIL特別顧問（非常勤） 2020年1月 株式会社LIXIL顧問（非常勤）（現任）</p> <p>（重要な兼職の状況） 株式会社マキタ社外取締役 ミサワホーム株式会社社外取締役</p>	0株
<p>（社外取締役候補者とした理由および期待される役割） 会社経営の豊富な経験と高い見識に基づき、取締役会において大所高所から積極的に発言し、当社の業務執行の監督の役割を適切に果たしております。また、役員の名指・報酬の決定に際しても、事前に適切な助言をいただいております。今後も独立した立場から、業務執行の監督機能強化への貢献が期待されるため、社外取締役候補者いたしました。</p>			

- (注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 森信静治氏は、社外取締役候補者であります。なお、同氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
3. 杉野正博氏は、社外取締役候補者であります。なお、同氏は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
4. 森信静治氏の社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって7年であります。
5. 杉野正博氏の社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって4年であります。
6. 当社は、森信静治氏および杉野正博氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。森信静治氏および杉野正博氏の再任が承認された場合、当社は両氏との間で当該契約を継続する予定であります。
7. 当社は、取締役、監査役を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、これにより被保険者がその職務の執行に関して、損害賠償を受けることによって生じる損害（ただし、保険契約上で定められた免責事由に該当するものを除く）については、当該保険契約により填補することとしております。
- なお、保険料は全額当社が負担しております。
- 各候補者が取締役に選任され就任した場合は、いずれの取締役も当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、当該保険契約の契約期間は1年間であり、当該期間の満了前に取締役会において決議のうえ、これを更新する予定であります。

以 上

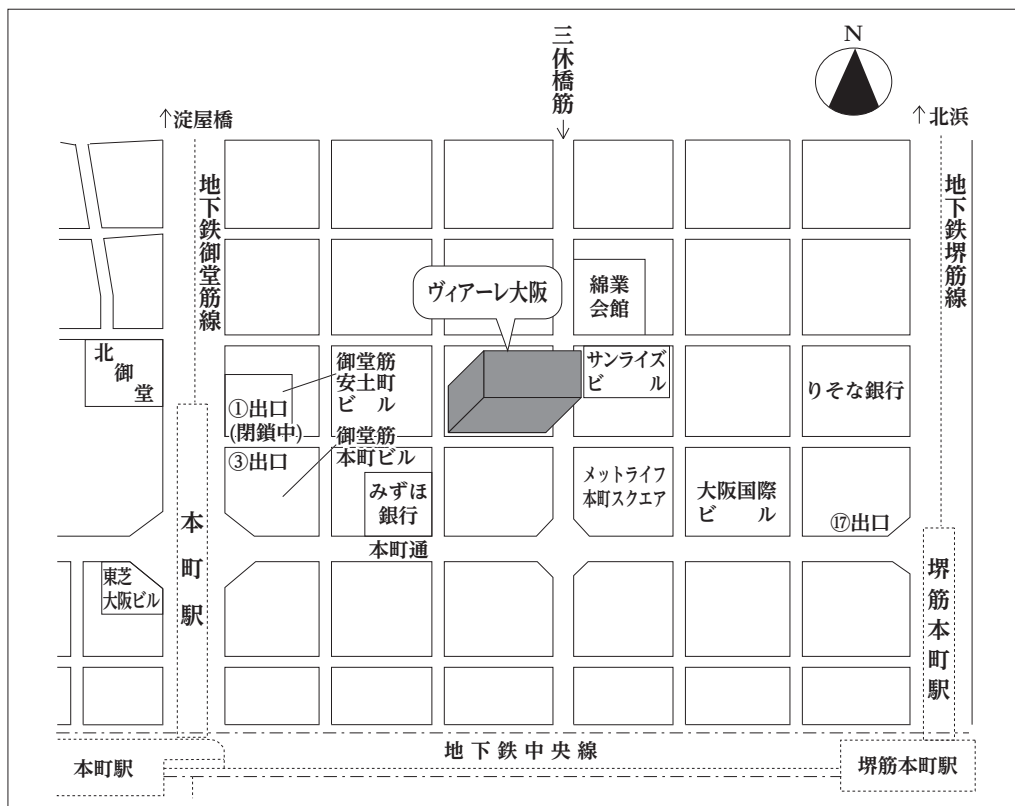




株主総会会場ご案内図

会場：大阪市中央区安土町三丁目1番3号
 ヴィアーレ大阪2階
 安土の間

- ご出席株主様のお土産のご用意はございませんので、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。
- ご出席株主様のお席の間隔を広く確保するため、ご用意できる席数が大幅に減少いたしますので、ご入場を制限させていただく場合がございます。



- ◎ 地下鉄御堂筋線 本町駅③番出口
 東へ徒歩3分
 ※ビル建替えのため本町駅①出口閉鎖中
- ◎ 地下鉄堺筋線 堺筋本町駅⑰番出口
 西へ徒歩5分
- ◎ 車でのご来場はご遠慮くださいますようお願いいたします。